

平成30年7月吉日
議事録担当 園崎弘道

大阪市立大学大学院 都市政策・地域経済コースワークショップ
6月29日実施分 議事録

テーマ：「N女とまちづくり」

ゲスト：NPO 法人 姫路コンベンションサポートセンター代表 玉田（石井）恵美 様

実施日：平成30年6月29日 18時30分～21時20分

【ゲスト紹介】永田先生よりゲストの紹介

NPO の果たす役割は、今後ますます大きくなる。しかし、NPO は、人材をどう確保できるのかは課題である。また女性が8割と、極めて高いことも大きな特徴。ゲストの玉田氏は、この卒業生（大阪市立大学大学院）でもある。修論をアレンジして、今日はお話をさせていただきます。

【講演内容】

NPO と女性たち、姫路でやっている NPO の事業紹介、事業継承、NPO を取り巻く現状、女性の働き方、N女って何を話します。

・自己紹介

旧姓は玉田、今は石井。旧姓を使っていないと、女性の場合は、キャリアが蓄積していかない。

・プロフィール

元ホテルマン、姫路市の行政系団体社員を経験。行政は、お金がないと口癖のように言うが、倉庫にはペンなどの文具もたくさん眠っているのが実態。カルチャーショックその1・財布が違う。その2・赤字もある程度許される。評価基準は様々であり、赤字でも許されることにショックを受けた。その3・民間の方々はペーパーも企画書もなく、いきなり要望を言う。

⇒1～3を体感し、官と民の懸け橋になりたいと思いNPOを作った。

・NPO でやっていること

コワーキング電博堂…出会いと交流の場

きて一な宍粟（委託事業）…姫路駅前にある宍粟市のアンテナショップ

アンテナショップ電博堂…補助金が切れたら終わってしまうアンテナショップの課題を改善し、週ごとに貸し出していく方法で運営。

姫路元気昼座…商店街に350枚の畳を敷き、1000名で宴会。

人情喜劇「銀の馬車道」…劇団設立され今年で11年目。現在は委託を受けてやっていますが、赤字を出しても続けたい事業。喜劇の方もボランティア。ボランティアだけど、みんな強い思いがあるので、このスタッフは成長できる。

指定管理事業（公共施設マネジメント）…市内6施設を受注。30名を超える雇用と、収入面では稼

いでいる事業。NPOにとって、固定収入が得られることは大きい。柱事業。

- ・リーダーとして悩んだ

NPO向けのリーダー論もほとんどないなかで悩み、チームビルディング等を取り入れ始めた。

2014年11月自宅で倒れて搬送され、ICU（集中治療室）に2週間入った。週末に、大型イベントと会計検査院が来ることになっていた時期で、30名のスタッフは立ち往生した。

⇒みんなで目標を立て、いつかくる継承の問題も意識しなくてはいけない

退院後、法人のブランディングを行った。15人のスタッフと、1年かけて、「本気でまちをおもしろくしたい人を全力サポートする法人です」と決めた。

- ・NPOを取り巻く現状

平成29年でNPOは、5万を超えた。うち認定NPOは、1078団体。

平成7年阪神大震災の際、行政だけではないボランティア活動が必要だと意識され始めた。平成10年特定非営利活動促進法施行された。その後、大きな天災や事故があるたびにボランティアの必要性と見直しも行われた。平成18年公益法人制度改革、平成23年NPO法改正、平成28年NPO法改正。今は、NPOでなくても、様々なやり方ができるようになったが、当時はNPOというやり方しか存在しなかった。

- ・NPO法人が抱える課題

人材やお金を次の世代に、引き継ぐことが難しい。特に、人材。少ない人数で即戦力が求められる。給料も安いのに、求められることが多いので、なかなか人は集まらない。結婚を機に、公務員になる男性も存在。NPOは、8割は女性。給料は安い。職員一人、100～400万円の給料。

- ・NPOで働く女性のモデル…49. 2才既婚者。保健・医療・福祉系NPO。一番下の子どもは成人。わりと高学歴。持ち家率は71%。

※参考図書：N女の研究、中村安希、フィルムアート社

女性の得意な分野…賛同者を得る、ネットワークを得る

女性の不得意な分野…会計処理、情報発信、組織づくり、マネジメント、資金獲得（内部問題は苦手）

働き方は、①正社員②非正規職員③有償ボランティア④無償ボランティアの4区分。1週間で、0～5時間で、0～5万円という働き方が多い。

活動への満足度は、とても高い。やりがい、自分に合っている、お金でない。

マズローの5段階があるが、高次の欲求を、NPOは満たす。逆に、低次の欲求を、NPOは満たせないで、男性はやめていく。男性はやりがいより稼ぎが求められる。女性はやりがいを求める。

女性は、介護や出産などで働けない時期がでてくる。育児中の女性には、責任の重い仕事をさせないよう配慮する傾向がみられる。でも、過度の配慮は、よくない、不要だと思う。女性がフォークリフトをした事例では、男性のみの職場の雰囲気が変わった、明るくなった、職場が綺麗になったなどの効果も生まれた。

資生堂ショック。美容部員が、15時に帰ると未婚または子育てを終えた女性から文句が出る。15

時～22時は、一番忙しく、また仕事上の経験にとっても大事な時間帯。資生堂は、女性を大切にす
る会社であるが、女性に対する優遇制度をやめた。短時間勤務はいつまでたっても一人前にならない、
配慮するだけが一番良いということにはならないことに気が付いた。

女性の働き方が変わらない理由は、色々あるが、「選択肢が増えても自分の意志で選ぶことができる女
性が少ない」と感じます。「主人に帰って相談します」も大事であるが、「私はこうしたいです」はも
っと大切で、ここが課題であると感じます。※参考図書：「女子の働き方」、永田先生、文響社

・N女プロジェクト 2014年スタート。

NPO サポートセンターの杉原さんが、N女の名付け親。

N女=社会貢献分野（社会課題解決のため高い事業性を備えた組織）で働く女性

N女プロジェクト=N女が活動分野の垣根を超えて、連携、協働し、事業を通じて、抱える課題を解
決していくプロジェクト

ミッション：女性が活動し働く上での課題を解決する

ビジョン：経済的、精神的に自立した女性を増やす。女性のキャリアの新しい選択肢を作る。

バリュー：N女1人ではできないことも、集まることで解決できる。

N女イベントは5回行われてきた

- 1、2016年1月。N女 ソーシャルセクターで働く女性のキャリアデザイン。N女の課題は、領域
を超えて、似た課題が多く存在することがわかった。
- 2、2016年9月。N女 ソーシャルセクターで働く女性のキャリアと未来を語る。
- 3、2016年12月。女性たちのシェアで広げる社会貢献、一夜限りのキフカッション&交流パー
ティ。「NPOで働く女子」、「NPOを作った女子」によるディスカッション。寄付文化の促進。活
動への寄付や事業収入が落ちる仕掛けづくりを目指しNPOサポートセンターがコーディネート。
- 4、2017年2月。社会を変える！女性たち。大阪市立大学大学院で実施。参加者は50名、一般
男性も多かった。収入よりやりがいを求めNPOへ。
- 5、2017年10月。パリティ、カフェ キックオフイベント。女性議員の割合を50パーセントに
したいというイベント。

・N女プロジェクト立ち上げの経緯

N女の実態

ソーシャルセクターの就職、転職を希望する女性が増えている

社会貢献、やりがい、自己実現、働く人への信頼を重視する女性が増えている

・N女の課題

1 長時間労働。2 賃金問題。3 仕事を生み出す、切り開く難しさ。4 男性の中で働く難しさ。5 仕
事と家庭の両立、パートナーの理解と協力。6 とにかく頑張りすぎる。7 相談相手、メンターがい
ない。8 キャリアや将来への不安。9 NPOの認知度と信頼性。などたくさん存在。

・N女プロジェクトとして当面の取組

認知度向上+N女の発掘。今後は、N女×〇〇といったコラボ企画を行いたい。人材育成、情報発信、交流、そして政策提言も行いたい。女性の働くことへの悩み、多様な生き方を啓発することが、大切だと考えています。

【永田先生のまとめ】

1・日本のNPOの課題…善意のボランティア団体という意味付けが大きすぎる。

NPOの成り立ち。

外国では、株主がない、内部留保をしなくてよいという意味合いが強い。ボランティアは当たり前前に根付いている。NPOやNGOも、高い給与は認められており、だからこそ人の循環が成立する。

日本では、利益を上げる意味を持たせなかった。

しかし、行政と民間会社間のギャップを埋めること、問題解決できるのは、やはりNPOだと言える。成り立ちを嘆いても仕方ない、その上で今何ができるかを考える必要がある。

2・女性が働くことの意義

男性の自殺率は、女性の3倍弱。自殺年齢は、40～50才で男性が80%弱。その理由は、仕事の問題。女性の活躍は、男性を楽にする。男性は働くより仕方がない、働き手としての過度のストレスがある。

ワークライフバランス…「仕事」、「家族」、「地域社会」、「個人」4つがあり、このバランスの事。女性は、この4つともに忙しい。男性は、夜、飲みにいけるのは、女性の果たしている働きがあるから。

3・課題

マネジメントスキル面。君は育児中なのでこれはやらなくてもいい、帰っていいよという配慮は、良くないことも多い。職場復帰後のモチベーションにも影響してしまう。

量的問題として、NPO、女性が働くとうことは閾値を超えている。15%はトークン(象徴)、25%はマイノリティ、30～35%は閾値。NPO、女性の働くを考えることは、社会にとって大切なものが見えてくるにつながるはず。

【質疑応答】

Q・N女プロジェクトの発信の仕方は？

A・人、お金がないので、今は、Facebookでの発信しかできない。

Q・NPOの発信の仕方は？

A・情報発信をしない事には賛同者が得られないので熱心に行っている。当初は、自分で動くことが情報発信だと考えていた。最近では、報告書を作成、HPの充実や、SNSの活用も大切にしている。

Q・NPOの強み。株式会社との違いは？

A・賛同者を得ることで0を1にすることができる。NPOであれば、行政は話を聞きやすい。株式会社では利害があり、やりにくいことが多い。企業は、CSR、CSVでやるので、企業がお金を出してPRやCMと捉えられてしまう。NPOとしての活動は、市民の参画が得られやすい。

Q・個人や個性で成り立っていると思うので、NPOの事業継承は難しいのですか？

A・大切なことであると思い、クレドを作った。私の次の人になったらやり方は変わると思う、でもミッション、クレドに沿って活動してくれれば、それでよいと思います。

Q・社員の評価で大切にすることは？

A・自分の意志を持つことを言い続けている。どうしようではなく、私はこう思うけれどどうでしょうかと聞いてほしい。なぜそう考えるかが大事だと思う。

Q・能力給、時間給はどう決めていますか？

A・NPOは最低賃金で働いている人が多い。最低賃金が上がったので、給料上がりますということが起きてしまう。私は、組織への貢献度を加味している。上司の評価は部下に聞いて行う。

永田先生・NPOの評価基準は難しい。みんなで作っているもので、誰がというのはわかりにくい。評価の基準もきちっとしめされていないことが多い。

Q・副業も広がりつつあり、行政からもNPOで働きたいという人が増えてくるのでは？

A・歓迎しますが、そんな人いますか？行政の方は、昔は、NPOを下請け業者と思っていたのでは。今は、一緒になって考えようという雰囲気になってきた。作業を手伝いますというのはいりません。新しい仕事、課題を解決したいというコミットは大歓迎です。